

(当テキストは決算説明会における説明を元に投資家の皆様の利便性を考慮して、要約としてまとめたものです。当日の説明を一言一句書きとめたものではありません。ご了承ください。)

## P2「2012年3月期 第1四半期決算 <概略>」

- ・ 震災影響と為替変動の影響により、第1四半期決算は営業利益が前年同期比54%、当期純利益が53%の減益となりました。
- ・ 基盤事業ではカラーMFPなどの販売は好調でしたが、モノクロMFPの販売が弱かったことに加え、震災影響による一部製品の供給不足が原因の欧米での受注残などもあり、売上高は現地通貨ベースでほぼ前年同期比フラットとなりました。海外極での需要自体は順調なので、第2四半期以降の販売拡大に期待しています。
- ・ MDS(マネージド・ドキュメント・サービス)とITサービス事業は堅調に成長を継続しています。
- ・ 震災影響による製品供給の問題は、9月末までにはほぼ解消できる見通しです。
- ・ 震災による直接的な利益影響は、通期で約100億円と見込んでおりましたが、第1四半期では約50億円とほぼ想定通りでした。
- ・ 5月に公表した17次中計の戦略展開については、新製品投入、新規ビジネスの展開など計画通りに進捗しています。(3ページ参照)
- ・ 今後の事業環境見通しについては、今年度末まで引き続き国内市場は、緩やかに回復するというように見ており、海外市場は着実に回復するだろうと考えております。また、サービス事業や新しい事業を成長させるとともに、新興国での事業は大きく伸ばせると期待しています。
- ・ 一方で、急激に円高が進行していることから、第2四半期以降の為替レートの前提をドル80円、ユーロ110円に変更しました。これにより、通期の業績見通しを引き下げました。しかし、当期純利益前期比+12%と引き続き増益を見込んでいます。
- ・ 期初の配当金の見直しは変更しません。

## P3「【参考】17次中計主要戦略の進捗状況」

- ・ 「プロダクションプリンティング事業基盤の確立」の戦略については、ライトプロダクション向けの新製品を6月に投入し大変良い評判をいただいています。また、リコー プロダクション プリント ソリューションズという会社を4月に設立し、プロダクションプリンティング事業拡大のための体制づくりを行っています。
- ・ 「新興国向け拡大」に関連し、7月にA4MFP、A4プリンターを投入しました。
- ・ 「新規事業の拡大」については、「eWriterソリューション」という、手書き入力タブレットのソリューションを、アメリカで7月から発売しております。「ユニファイドコミュニケーションシステム(UCS)」は、7月に製品発表を行い、販売活動を始めております。「LED照明」も7月から販売を開始しております。

- ・ 「販売体制の強化」については、MDS、ITサービスの拡大ということを狙って、オーストラリアやインドの会社を買収しております。
- ・ 「体質改善」についてCRGPを引き続き推進しています。6月に国内での希望退職プログラムを開始し、費用として230億円を見込んでおります。これは第2四半期に計上予定です。
- ・ 以上、中計で展開している戦略は、予定を上回る速度で進んでいます。

#### P4 「2012年3月期 第1四半期 業績」

- ・ 第1四半期の売上高は4,661億円、前年同期比 マイナス3.5%の減収でした。内訳は、国内でプラス1%、海外でマイナス7%でした。平均為替レートがドル81.71円、ユーロ117.62円と、ドルが円に対して大きく下落しており、現地通貨ベースではマイナス1%の減収でした。
- ・ 日本では、第1四半期は震災影響が色濃く残りました。一方で震災発生後に止まっていた商談が、4月以降に繰り延べされるなど、プラスとマイナスの両面があった結果として、対前年同期よりは増収となりました。月を追うごとに改善の傾向が見えてきていますので、下期には少し良い環境になると見えています。
- ・ 海外は、米国経済の回復は少し遅れる印象がありますが、従来の想定からは若干悪くなる程度で、着実な伸びは期待できると見えています。欧州は国によって状況にバラツキがありますが、現地での需要は堅調に推移しています。
- ・ しかし、米国、欧州については、震災影響に伴う製品供給の問題が若干出て、バックオーダーが発生しました。
- ・ 第2四半期以降は、引き続き需要・供給とも改善されると見ており、新規事業の拡大や新興国の需要増加なども期待できます。為替変動を除けば、おおむね予定通り推移しています。

#### P5 「【参考】2012年3月期 第1四半期 分野別売上高」

- ・ 分野別の売上高で一部売上の組み換えを行いました。MDSの売上を「ネットワークシステムソリューション」から「画像ソリューション」に変更しました。
- ・ 地域別売上高では、日本は、2009年度第4四半期以降、堅調に回復してきたのですが、昨年度の第4四半期で急激に減少し、この第1四半期は1%成長に戻りました。
- ・ 欧米は、継続的にプラス成長してまいりましたが、この第1四半期は製品供給による影響を受け、若干ですが欧米ともに前年同期比減となりました。アジア・パシフィック地域も同様に若干影響を受けており、前年同期比ではプラス成長していますが、成長率が少し低下しました。

#### P6 「2012年3月期 第1四半期 営業利益:前年同期比増減分析」

- ・ この第1四半期の営業利益は、前年同期比較で118億円減益となりました。

- ・ 「販売増」による利益増は27億円となり、付加価値の高いMFP、PP分野のカラー機の販売が増加しました、また、MDS、ITサービスの増加も寄与しています。
- ・ 「製品原価低減」によって、9億円の増益となりました。年間見通しでは50億円の増益としており、ほぼ計画通り原価低減活動が進んでいます。
- ・ 「研究開発費増加」は、新製品の開発費の増加によるもので、計画通りです。
- ・ 「その他の経費増加」は、新規事業を含む新製品の販売準備と、新興国向けの体制拡大の投資増加などによって50億円の減益要因となりました。これも計画通りです。
- ・ 「為替影響ネット」は、34億円の減益要因となりました。これは、総利益での減益として99億円、換算による経費の減少分で65億円の増益をネットしたものです。
- ・ 「震災影響」は50億円の減益要因です。これは製品や消耗品販売で直接影響を受けた分として計上しています。製品を緊急対応で空輸しているコストなども含まれています。一方で、震災影響または節電のために出力を抑えている影響や、販売見込みのお客様が購買を見送ってしまったケースなどの影響は含めていません。

#### **P7 「【参考】2012年3月期業績 補足：四半期推移」**

- ・ 業績の四半期推移を見ていただくとお分かりの通り、営業利益は2010年度の第4四半期を底に、この第1四半期から改善してきています。
- ・ 営業利益率など他の指標類もおおむね改善傾向です。販管费率だけ少し悪化しているように見えますが、これは売上高が落ちたため、経費額自体が膨らんでいる訳ではありません。

#### **P8 「2012年3月期 第1四半期 連結セグメント情報：事業別(1)画像&ソリューション分野」**

- ・ 画像&ソリューション分野においては、画像ソリューションの売上高が、為替影響を除いてもマイナス0.6%だったのが、少し残念なところです。中身として、MFPとプリンター合計でのハード売上は、前年同期比フラット、ノンハードがマイナス1%となっています。
- ・ 国内は、3月の震災影響の反動で、ハードが高い伸びを示しましたが、ノンハードの減少が続いています。海外はカラーMFP、MDSなどが2桁成長している一方で、モノクロMFPが減少しています。
- ・ ネットワークシステムソリューションは、国内中心にITサービス等が伸びており、前年同期比13%以上の増収となりました。
- ・ 結果として、画像&ソリューション分野の営業利益は、前年同期の379億円から、今年度の268億円と約110億円の減益、営業利益率も低下しました。

**P9 「【参考】画像&ソリューション分野 補足:四半期推移」**

- ・ ハードウェアの前年伸び率が0%であり、これは時間を経てノンハードの伸び率にも影響してまいります。ハードウェアの伸び率を上げていきたいと考えております。

**P10 「2012年3月期 第1四半期 連結セグメント情報:事業別(2)産業分野」**

- ・ 8億円の減益となりました。震災影響による、販売減少、部品不足などが影響しました。

**P11 「2012年3月期 第1四半期 連結セグメント情報:事業別(3)その他分野」**

- ・ 4億円の減益となりました。2010年度第4四半期より改善はしましたが、デジタルカメラ事業を中心に震災影響もあり伸び悩みました。ただし、事業が回復基調であることに加え、様々な手段を講じており、年間では赤字を解消する計画です。

**P12 「2012年3月期 第1四半期 連結セグメント情報:所在地別(1)日本、米州」**

- ・ 日本: 為替影響により112億円の減益となっております。しかし、2010年度第4四半期より改善してきており、さらに改善を進めてまいります。
- ・ 米州: 震災影響により一部製品の出荷が滞ったことなどにより、残念ながら42億円の赤字となりました。これは一過性の赤字であり、通期で黒字化という見直しは変更しておりません。

**P13 「2012年3月期 第1四半期 連結セグメント情報:所在地別(2)欧州、その他」**

- ・ 欧州: 震災影響でバックオーダーを抱えるなど10億円の減益となりました。
- ・ その他地域: 震災影響等によるバックオーダーなどにより、利益減となっています。

**P14 「連結貸借対照表 < 2011年6月末 >」**

- ・ 為替影響などいくつかの要因により、全体的に52億円の総資産の圧縮になっております。
- ・ 棚卸資産が震災影響も含め155億円増加しております。

**P15 「【参考】連結貸借対照表: 主要指標推移」**

- ・ 棚卸資産回転期間が2.06と上がっておりますが、SCMも含めて見直し、今年度中に正常レベルに戻したいと考えております。

#### **P16 「連結キャッシュフロー計算書 < 3ヶ月分 >」**

- ・ 利益減と在庫増等により、フリーキャッシュフローが、第1四半期マイナス191億円となりました。現在、改善の手段を講じております。

#### **P18 「2012年3月期 通期 業績見通し <修正>」**

- ・ 通期見通しは、前回(4月)見通しから為替前提変更分を下方修正し、売上高は前年比3.5%増、営業利益はマイナス10%、税前利益3.5%増、純利益は12%増としました。
- ・ 為替前提は第2四半期以降についてUSDルを80円、ユーロ110円としています。
- ・ 国内売上高は3.3%増、海外が3.6%増、現地通貨ベースでは7.9%増と、市場の伸びを上回る成長を見込んでおります。
- ・ 今年度は、期初に申し上げましたとおり、構造改革費用として300億円を見込んでおります。また、構造改革の効果として今期中にプラス100億円見えておりますので、年間では200億円の費用増となります。
- ・ 構造改革費用の計上は、第1四半期はゼロ、第2四半期で230億円、効果はゼロ、下期に70億円の費用と効果100億円を見込んでおります。
- ・ 全般的に、為替影響を除くとほぼ想定通りに推移しており、為替影響分160億円を期初営業利益見通し700億円から差し引いた540億円を通期営業利益見通しとしております。

#### **P19 「2012年3月期 通期 営業利益見通し：前年度比増減分析」**

- ・ 「販売増」で売上総利益増加を440億円見込んでおります。現状のバックオーダーも解消してまいります。
- ・ 「製品原価低減」では50億円の売上総利益増を見込みます。
- ・ 「研究開発費」、「その他経費」ではそれぞれ予定通り92億円、90億円の費用増を見込んでおります。
- ・ 「為替影響」は、期初プラス90億円の利益増を見込んでおりましたが、今回160億円マイナスの70億円の利益減と変更しております。
- ・ 期初申し上げましたとおり、「構造改革費用」として200億円、「震災影響」として100億円の減益要因を見込んでおります。

**P20 「2012年3月期 通期 分野別売上高見通し」**

- ・地域別の売上に関して、日本の売上高を若干引き上げています。

**P21 「【参考】 PENTAXイメージングシステム事業の買収について」**

- ・ PENTAXイメージングシステム事業の買収に関しては、これまでに基本合意は締結されましたが、買収完了は2011年10月の予定です。
- ・ この買収の影響は、今期の業績見通しには、まだ含めておりません。

**P22 「連結財務指標推移（年度別）」**

- ・ 配当金は年間33円を維持する見通しです。
- ・ 業績、キャッシュフローの改善を見極め、適宜、配当金・自社株買いを含めた株主還元を検討してまいります。

以 上